

株式会社白鳩

ポジティブインパクトファイナンス評価書

2025年2月18日



大垣共立銀行とOKB総研は、株式会社白鳩（以下、「同社」）に対してポジティブインパクトファイナンス（以下、「PIF」）を実施するにあたって、同社の事業活動が環境・社会・経済に及ぼすインパクト（ポジティブインパクト/ネガティブインパクト）を分析・評価した。

この分析・評価は、国連環境計画金融イニシアチブ（UNEP FI）が提唱した PIF 原則および PIF 実施ガイド（モデル・フレームワーク）、ESG 金融ハイレベル・パネルにおいてポジティブインパクトファイナンスタスクフォースがまとめた「インパクトファイナンスの基本的考え方」に則ったうえで、大垣共立銀行とOKB総研が開発した評価体系に基づいている。

目次

1. 企業概要と経営理念、サステナビリティ.....	1
(1) 株式会社白鳩の企業概要.....	1
(2) 株式会社白鳩の事業概要.....	3
(3) 経営理念.....	9
(4) サステナビリティ.....	10
2. インパクトの特定.....	13
(1) バリューチェーン分析.....	13
(2) インパクトマッピング.....	13
(3) インパクトレーダーによるマッピング.....	14
(4) 特定したインパクト.....	15
(5) インパクトニーズの確認、大垣共立銀行との方向性の確認.....	18
3. インパクトの評価.....	20
4. モニタリング.....	22
(1) 株式会社白鳩におけるインパクトの管理体制.....	22
(2) 大垣共立銀行によるモニタリング.....	22

1. 企業概要と経営理念、サステナビリティ

(1) 株式会社白鳩の企業概要

企業名	株式会社白鳩
創業	1950年
設立	1958年 7月 1日
代表者名	代表取締役社長 横井 隆直、代表取締役副社長 津田 武
資本金	1,500万円
従業員	169人 (2024年 6月時点)
売上高	24億円 (2024年 4月期)
事業拠点	本社・南工場 愛知県名古屋市南区弥生町 121番地の1 天白工場 愛知県名古屋市天白区島田 1丁目 601番地 盛岡工場・盛岡第二工場 岩手県盛岡市みたけ 5丁目 15-1
事業内容	マスク製品の企画・製造・販売
関連会社	株式会社白鳩ホールディングス (関連会社の株式、動産、不動産管理および 関連会社の業務請負、受託、コンサルティング) 株式会社ヨコイ (繊維製品の企画製造販売) コア・テクノロジー株式会社 (機能性スポーツギアの企画製造販売) CORE TECHNOLOGY USA Inc (機能性スポーツギアの販売)



<沿革>

1950年	創業、ヘアネットの製造開始 日本で初めて民生用マスクを開発・販売
1958年	株式会社横井正男商店設立
1965年	腕カバー、農業用防止を製造開始
1968年	株式会社横井正男商店を、株式会社白鳩本舗に商号変更 名古屋市瑞穂区から南区の現住所に移転
1976年	株式会社白鳩本舗を、株式会社白鳩に商号変更
1983年	名古屋市緑区大高に新倉庫設立
1984年	花粉用マスク製造開始
1986年	不織布マスク発売
1989年	本社事務所敷地内に新工場設立
1990年	袖口加工用（メリヤス取付用）特殊マシン導入
1993年	オートパッケージングシステム機導入
1998年	ボタンマシン機導入
2004年	新型オートパッケージングシステム機導入
2005年	名古屋市南区鶴田町に新倉庫設立 ISO9001 認証取得
2008年	中国・南通市に縫製及びマスク生産専用工場として glad社を設立
2009年	パッケージングシステムと連動した高精度ウエイトチェッカー導入 パッド印刷機導入
2010年	生産・物流・在庫一括管理システム導入 ポリウレタンマスク発売
2013年	盛岡工場稼働
2016年	(株)ヨコイ グループ会社化
2017年	天白工場稼働
2018年	ラボ開設

2019年	女子軟式野球部「白鳩フェリックス」発足
2020年	画像検査装置導入、生産ライン FA 化 コア・テクノロジー(株) グループ会社化 andMask 販売
2021年	グローバルロゴ決定 盛岡第二工場完成、CORE TECHNOLOGY USA-Inc 設立
2024年	SHIELD TALK 発売開始

(2) 株式会社白鳩の事業概要

医療品として薬局でしか販売されていなかったマスクを一般向けに改良し、広く誰でも気軽に購入できるよう、日本で初めて販売を開始した。戦後の医療用マスクは、耳ゴム部分はテープを利用して耳に止めており、大変不便だったが、これを伸び縮みができるようゴムひもに改良したり、耳が痛くならないようウーリー素材を導入したりと、現在のマスクの基本的なデザインや素材へ改良してきた。最近では、不織布マスクの他、ポリウレタン素材を利用したマスクの開発等、より多岐にわたる顧客の要望をしっかりと受け止め、日々試験を重ねて、常にこれまでにない最高の商品に向けて改良を続けている。

取扱製品は、OEM 製品と自社ブランド製品に分かれる。OEM 製品に関しては、大手薬剤メーカー、大手薬局、大手スーパー、大手コンビニなど様々な顧客のニーズに対応している。

【取扱製品】

<代表的な製品例>

① BLOCK2.5

息がしやすく、花粉、ウイルス飛沫、微粒子などを高く補集する高性能フィルターを採用。抗菌フィルターと口元快適フィルターを使用した高性能日本製マスク。



② 不織布立体マスク大人用 5 枚入

口元の空間を広げた 3 層立体マスク。外側は銀抗菌加工不織布を採用。日常的に使用し易いよう 5 枚入りパッケージングもこだわりの一つ。



③ガーゼマスク大人用 1 枚入

最高級のコットンガーゼを使用したベーシックなマスク。落ち着いた柔らかな風合いと、コットン独自の保湿性・保温性で防寒対策にも有効。



④ガーゼマスク子供用 1 枚入

最高級のコットンガーゼを使用した子供用マスク。コットン独自の保湿性、保温性がある。給食マスクなどにも使用できる。



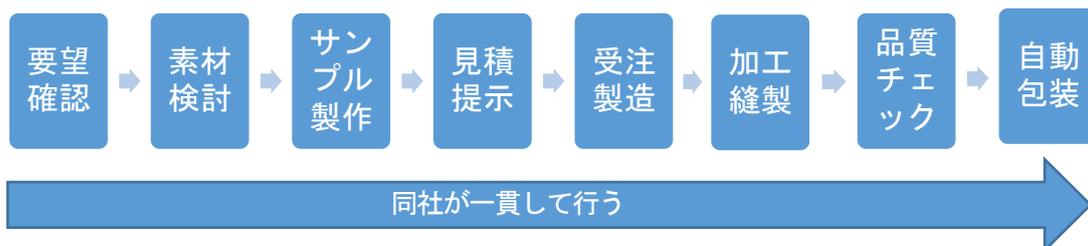
⑤andMask

不織布マスクと同等の高性能フィルターを内蔵した、3層構造の布製マスク。マスクの内側の縁に施したスポンジ素材が耳ゴムまでつながる、オールアラウンド構造（特許取得済み）を採用して、長時間マスクを着用しても耳が痛くなりにくい。手洗いして繰り返し使え、高い耐久性を保持。



<OEMの流れ>

マスクの OEM に求められる機能や要望は多岐にわたり、価格、品質、機能、納期など顧客の企画を実現するのが一般的だが、同社ではそれらの価値+aを提案し、よりよい製品を作り上げている。



①顧客のニーズ、要望の確認

同社の OEM 製作は詳細な顧客へのヒアリングからはじまる。マスクをどこで、どのように、いつ頃販売したいのかという要望や、細かな仕様（サイズ、色、抗菌、消臭、形状等）、フィルターの要望（飛沫ウイルス、細菌、PM2.5、花粉）、パッケージの要望等を確認する。

同社では国内・海外両方での製造が可能。自社工場によるスピーディーな対応ができるため、顧客が要求する仕様、価格、納期にあわせてどの素材をどの工場を組み立てるのが最適なのか生産体制を含めて、生産計画を立てられる。

②使用環境に応じて素材を検討

同社で製造するマスクは不織布と布の 2 種類のタイプがあり、密度が違う生地の使用や、追加の機能を持たせることができる。

天然由来のものや化学樹脂を含浸させる等、抗ウイルス、抗菌、消臭、保湿、UV カットなどの素材の開発や、飛沫ウイルスの捕集性能を高めたフィルター、PM2.5 の微粒子対策の設計も行う。

デザイン性が求められる場合、カラーの生地やプリントの生地も検討し、コンセプトにあわせて最外層、口元などの生地を使用したらよいか、耳ゴムの太さの調整も行う。顧客が開発した生地、フィルターの組み合わせも可能。

③要望にそって仕様を決定しサンプルを製作

方向性が決まった後、サンプル作成に入る。極力実際に製造する設備で、実際の原材料を使用し検証する。

ここで企画内容が、初めてマスクという形になる。イメージとのギャップを調整し、素材や設計などを見直しする。製造においてもこのサンプル作成の工程で問題を確認し、量産時に安定した生産ができるよう調整する。

④製造から検品、包装まで対応した内容で見積

作成したサンプルに納得した後、見積書を提示する。マスク本体だけでなく、検品、包装まで対応した内容で見積書を作成する。この時点で簡単な仕様書、リードタイム表も提出するので、価格だけではなく、納期は問題ないか双方で確認することができる。

⑤受注確定後、製造

サンプル、価格、納期などの条件があえば受注という流れになり、契約書を締結し製造の準備に入る。

まずは原料、資材の発注。同時に設備、人員の計画を立て、生産に備える。高付加価値のマスクを海外で製造する場合は、原料の手配・輸出・製造・ SHIPPING サンプル確認・輸入などの予定もこの時点で計画し、顧客の希望する納期に間に合うよう、組み立てる。

⑥加工・縫製

原材料の成形から平ゴムの超音波熱有溶着までフルオートメーション化された設備を導入しており、オリジナル性の高い商品でも短納期・高品質での提供を実現している。

⑦独自の検査基準で品質チェック

同社は全国マスク工業会に属し、衛生マスクの安全・衛生自主基準を遵守して、マスク作りが行われている。

作業員の服装も厳格な基準を設定し、食品 HACCP 対応の作業着を着用し安全基準にてマスクの製造を行っている。

超音波溶着により 1 分間で 100 枚以上製造されるマスクを同社独自の検査基準を設け、工程毎に検査、記録している。工程内においても、決められた規格であるか常に確認しロット管理をしている。万が一、品質不良が出た場合でも、早急に発見する管理体制を整えており、捕集率などのデータ管理も安全公平な品質担保の為、必ず第三者公共機関での検査を全商品確認している。

⑧自動包装

同社が最も強みを発揮できるのが検品、包装の過程である。自社開発した自動包装機によってスピーディに衛生的・安心・安全なマスクを提供している。不織布マスクは検査項目、頻度など過去の実績から決定された検品管理体制のもと、検査・包装を行っている。

また、カメラ検査システムを導入した FAラインにより、繁忙期の秋から春先にかけてもスピーディに高品質なマスクの生産、納品が可能となっている。

<自社ブランド製品>

SHIELD TALK (シールド トーク)

- 声を小さく抑える効果と快適な使用感を両立させ、安心して会話が可能になるリモート会議用ガジェット“SHIELD TALK”を2024年10月新発売。
- コロナ禍で多くのマスクを世に送り出したが、次はウイルス飛沫から守るマスクではなく、「会話のプライバシーを守るマスク」を開発した。
- 自分の声は周囲に減音。周囲の雑音は軽減してクリアな通信を行う。まわりの人に会話の内容が漏れず、不快感を与えることを防ぎ、逆にまわりの雑音は通話相手に聞こえない。
- 長時間の利用を想定する本品は、通常的设计では耳に負担が集まり、痛くなることが想定されるため、後頭部に装着可能なマグネットバックルを採用。耳への負担を後頭部に分散することにより、長時間の使用でも耳が疲れにくく、ストレスが軽減される。
- 会議中、聞く側に回ったときなど、一時的にマスクを外し、首から下げておくことができる。これにより、自身がしゃべるときのみ、口元に当てて使用するなどの使い方も可能になる。

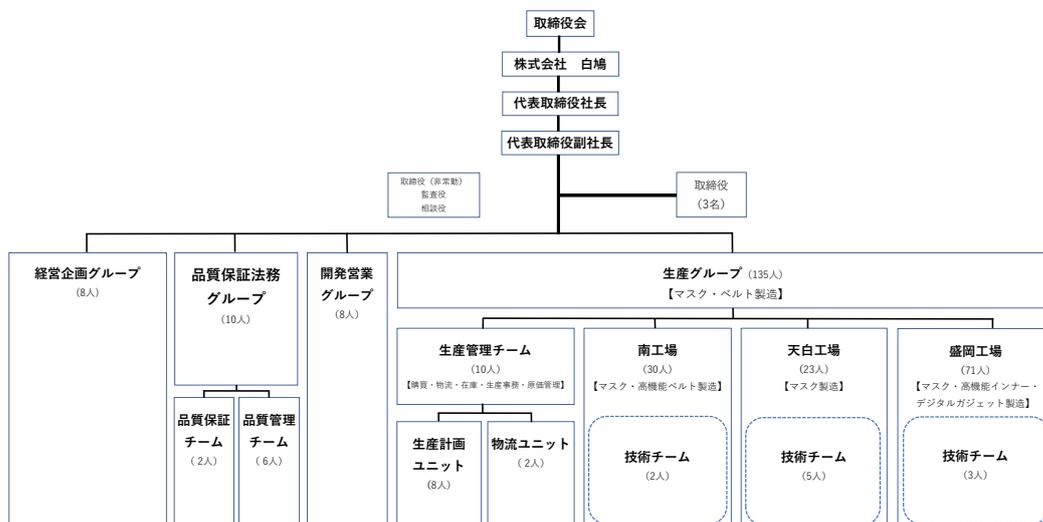


コアエナジーⅢ 野球ベルト（同社製造、関連会社コア・テクノロジーで商品企画・販売）

- プロ野球の第一線で活躍する選手も愛用する究極の野球専用ベルト「コアエナジーⅢ」。野球用に開発された伸縮性素材を使用しており、コルセット感覚で体にフィットし、しっかりと体をサポートする。
- コアエナジーを締めることで、体幹に作用するインナーマッスルに圧力を加え収縮力を高める。四肢のバランスが整い、上半身と下半身の運動性が向上することで、本来のポテンシャルを引き出すことが可能。また、骨盤のバランスを整えることで、体のバランスを整え、体の使い方がスムーズになり、パフォーマンスを向上し、怪我を防ぐ。
- 機能性ベルトとして特許取得済。現在では、日本のプロ野球選手の 6～7 割、高校野球やアマチュア球界でも選手の約 5 割に愛用されている。



【組織体制】

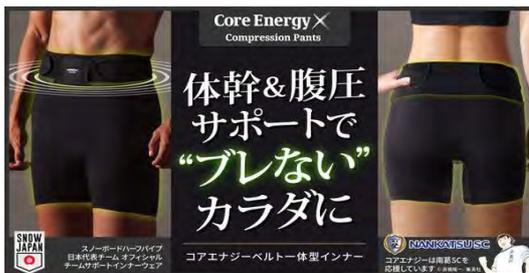


【同社の強み】

- 日本で初めて民生用マスクを開発したマスク業界の老舗として、これまでに培ってきた実績や情報をもとに、市場・トレンドに合わせた提案が可能である。
- 自社設計したオリジナルの設備や開発素材で顧客の要望に応えている。
- 社内に製作部門や工場を持たない企画会社とは違い、社内に企画・営業部門や製作部門となる工場があるため、急ぎのサンプル出しの対応などスピードが求められる場合でも、素早く対応することができる。
- 商品の使用や時代のニーズに合わせ、変化する顧客の要望・費用感に可能な限り応えられる、柔軟な対応力が自慢。他社や機械設備で出来ない作業でも、同社では対応可能である。
- 日本における一般衛生マスクは雑貨品だが、同社ではマスクは口につけるものであることから“食品レベル”の検査項目や管理システムを自社で設置し、生産・品質・納期管理をしている。国内、海外で生産されたマスクはすべて自社オリジナル包装ラインで自動包装している。
- マスクに欠かせない「ゴム」の取り扱いにも優位性がある。
- 常に世の中のニーズや流れを敏感に察知し、顧客にとってより良い物を考え企画している。この積み重ねが、新しいアイデアやこれまでにない使い心地の良い商品開発の源泉となっており、顧客やその先のユーザーのことを第一に考えながら開発することで、その結果として国内外の知財の取得につながることも少なくない。これこそが同社の持つ開発力であるといえる。
- 研究開発に長けており、特許 2 件、実用新案 10 件、意匠登録 5 件の実績あり。

【今後の展開】

- 主力商品であるマスクの拡販を行っていく。
- 使用環境に応じてマスクの素材を検討する。常に世の中のニーズや流れを敏感に察知し、顧客にとってより良いものとなるよう、自社設計した同社オリジナルの設備や素材の開発など、日々創意工夫を重ねていく。
- さらに、2024 年 10 月より防音を目的としたリモート会議用ガジェット“SHIELD TALK”の販売を開始。既存のマスクにこだわらない事業展開を進めていく。
- 同社が製造する「コアエナジーⅢ」（野球ベルト）の新たな市場開拓を目指して、グループ会社の CORE TECHNOLOGY USA Inc がメジャーリーグにもネットワークを駆使してアプローチをかけ、既にドジャースやパドレスなど 4 球団ほどが採用している。日本よりもマーケットが大きいアメリカで需要拡大中であり、「アメリカでも使用されているベルト」というブランドイメージを上げて日本への逆輸入も狙う。
- また、「コアエナジー」の最新モデルである「コアエナジー X」（コアエナジーベルト一体型インナー）を 2024 年 12 月より販売開始。野球に限らず、サッカーを始めスポーツ全般に向けて展開していく。



(3) 経営理念

製品の利便性や耐久性のみに拘ったモノづくりではなく、使用する人の目線に立ったモノづくりや、同社に關与する全ての人々の気持ちに立ったモノづくりで、同社に關する全ての人々の気持ちに立った企業姿勢を常に心掛けてきた。1950年の創業以来、同社に脈々と受け継がれるこの想いは、常に顧客の方を向くこと、常に製品を磨き上げることで、より高度化・多様化するニーズに応え、具現化してきた。同社は今後も、様々なニーズに真正面から向き合い、近道をすることなく、製品というカタチにしていく。

このため、同社は以下のように「マスクング」という新しい考え方を生み出し、「同社の存在意義」を定めている。また、副社長が毎月1回各拠点に赴き、こうした考え方を常々語り、社員への浸透を図っている。

「マスクング」

同社ではマスクが果たしている役割を、「マスクング」と呼んでいる。体内と体外の出し入れをする所に「マスク」があり、必要なものを増やし、不要なものを減らして、それらを常に増減させている。つまり進行形の「イング」である。

(下図参照)



例えば、体外にありながら必要な酸素や温度はしっかり取り入れて、体外にあって不要なウイルスや花粉はしっかり減らす。そして、体内にあって外に出してはいけない飛沫は減らす。

また、コアテクノロジーが取り扱っているベルトは、ベルトによって筋力を正しく使いこなせるようになる。つまり、体内にあって外に出すべき必要な筋力をしっかり増やしており、これもマスクングの一つと考えている。入れるもの、出すものを、増やしたり、減らしたりすることがマスクングという機能である。

マスクングという言葉は、辞書では「覆い隠すこと、包み込むこと」と出てくるが、同社の考えでは、「人間にとって不要なものはブロックしたり、排出する、必要なものは留め、取り込むこと」を意味する。

「同社の存在意義：マスクングによって、人間の「できる」を広げる会社」

マスクングとは、人間の「できない」ものを「できる」ようにしていること。そうすることで、人間のパフォーマンスを高めることを実現している。これこそが同社のマスクが、人々に、世の中に、提供している価値の本質であると考えている。

例えば、

- ひいてしまった風邪をひかないですむ。だから、今日も元気に過ごすことができる。
- 花粉を防ぐことができ、鼻づまりが楽になって笑顔になれる。
- 体が感じる寒さを減らすことができ、寒い日でも外で動くことができる。

- 自分の筋力を正しく使いこなすことができる。

同社は、これまでとは違う視点から「マスク」を通じてマスクングを磨き続け、「すべての人々の幸せのために」これを進化させながら実現していくことを目指している。

「すべての人の幸せのために」

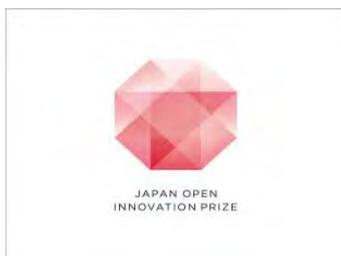
「楽しく楽して」

私たちの **存在意義**

(4) サステナビリティ

① 製品・サービス

- 全国マスク工業会に属し、衛生マスクの安全・衛生自主基準を遵守して、マスク作りが行われている。作業員の服装も厳格な基準を設定し、食品 HACCP 対応の作業着を着用した安全基準にてマスクの製造を行っている。
- 超音波溶着、自動包装等により製品品質は厳格な水準を維持。
- 2022 年 1 月、第 4 回日本オープンイノベーション大賞において厚生労働大臣賞を受賞。



② 環境

- 同社から排出される廃棄物の減少。
必然的に不良品は出るが近年不良率 5%以下まで削減している。長く使ってもらえるマスク、捨てなくてもすむマスクの開発にも取り組んでいる。
- マスクの着用による感染症の予防や拡散の抑止を行い人々の健康促進を図る。
- コロナ禍においては、政府のコロナ対応要請に対応するべく、品質の高い安心・安全なマスクを迅速かつ安定的に供給できるように緊急増産体制を敷いてきた。

③ 人権・働きがい

- 働き方改革の導入。
副社長が各拠点に赴き全従業員との面談を実施しメンタルチェックを行っている。それぞれの特性を見極め、要望を聞き取り適材適所への配置を実施。
- 社内アンケートにより要望のあった、1 時間単位で取得できる有給休暇制度の導入。

- 育休休暇制度の導入。男性社員・女性社員とも取得実績あり。休暇期間は1年。
- 賃金アップ、待遇の向上。2025年春には賃金アップを予定。
- 65歳以上の継続雇用ガイドライン策定および運用開始。
- 男女・国籍の有無を問わず幅広く採用。
- 在宅勤務制度あり。

④ 地域貢献

- 出張授業（のべ4校、500名）、オンライン出張授業（のべ1校、790名）

同社のスタッフが依頼のあった学校や施設に無料で訪問し、出張授業を行っている。マスクの果たす役割や構造などの知識、正しいマスクの使い方を教え、日常生活におけるマスクを使用する場面や楽しみ方について提案を行う。都度アンケートを実施し満足調査を行い、伝え方や見せ方をより良くするためのブラッシュアップに活用している。



- 2022年キッズニア東京にブースを期間限定で出展、2023年にはジョブキッズいわてに参加し、キッズニア福岡に「マスク工房」パビリオン（常設）を出展。子供がオリジナルマスクを作ることにより、「正しく理解し、着けることの大切さ」を学ぶことで、マスクが持つ重要な役割に気付くことを期待している。

<キッズニア東京>

<ジョブキッズいわて>

<キッズニア福岡>



- その他

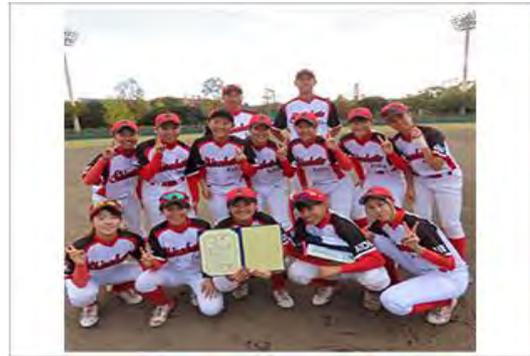
職場見学実施（のべ4校、267名）

職場体験実施（のべ3校、14名）

インターンシップ実施（のべ2校、6名）

⑤ 雇用

- 人手不足で企業の採用活動が厳しさを増す中、人材確保につなげようと女子軟式野球部「白鳩フェリックス」を創部した。採用を円滑に進めるための一環で、働きながら野球を続けられる環境を提供することで人材を確保する。



2. インパクトの特定

(1) バリューチェーン分析

- 同社は、民生用マスクをOEMで製造しているメーカーであり、ガーゼや不織布、ポリウレタンなどを仕入れ、同社が製造から梱包までを一貫して行い、「医薬品メーカー」や「商社」等に販売している。
- マスク製造に関する知見や技術力を生かし、価格、品質、機能、納期など川下企業の要望に応えるだけでなく、更なる価値を提案し、よりよい製品を作り上げている。
- また、縫製の技術力を生かし、2020年にスポーツ選手向け機能性ベルト（コアエナジー）の製造会社をグループ会社化し、同ベルトの製造を手掛けている。今後は同ベルトのターゲット層を広げていく方針である。
- 同社のバリューチェーンは以下の通りである。



(2) インパクトマッピング

- 大垣共立銀行は、先述のバリューチェーン分析の結果をもとに、インパクトマッピングを実施する。
- 同社の事業を、「その他の紙及び板紙製品製造業（国際標準産業分類：1709）」、「スポーツ用品製造業（同：3230）」とする。
- 川上の事業を、「他に分類されないその他の織物製造業（同：1399）」、「パルプ、紙及び板紙製造業（同：1701）」、「プラスチック及び合成ゴム素材製造業（同：2013）」とする。
- 川下の事業は、一般消費者が対象となるためインパクトの特定は行わない。

以上の事業について、UNEP FI が提供するインパクトレーダーを用いて「ポジティブインパクト（以下 PI）」と「ネガティブインパクト（以下 NI）」を想定する。

(3) インパクトレーダーによるマッピング

バリューチェーン	川上の事業						同社の事業			
	他に分類されない その他の織物製造業 (1399)		パルプ、紙及び板紙製造業 (1701)		プラスチック及び合成ゴム 素材製造業 (2013)		その他の紙及び 板紙製品製造業 (1709)		スポーツ用品製造業 (3230)	
	Positive	Negative	Positive	Negative	Positive	Negative	Positive	Negative	Positive	Negative
インパクト										
水										
食料										
住居										
健康・衛生	●		●						●	
教育			●				●			
雇用	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
エネルギー										
移動手段										
情報										
文化・伝統			●							
人格と人の安全保障										
正義										
強固な制度・平和・安定										
水（質）		●		●●		●●		●●		●
大気		●		●		●		●		●
土壌						●●				●
生物多様性と生態系サービス										
資源効率・安全性		●		●		●		●		●
気候		●		●		●		●		●
廃棄物		●		●●		●●		●●		●
包括的で健全な経済	●		●		●		●		●	
経済収束										

「●●」は重要な影響があるカテゴリを示す

「●」は影響があるカテゴリを示す

発現したインパクトについて、同社の事業について、カテゴリ毎の対応する SDGs ターゲットを整理する。
 川上の事業については、同社が与える影響は限定的であるため、インパクトを特定しない。

	カテゴリ	インパクト		取組内容	対応するSDGs	
		PI	NI			
同社	社会	健康・衛生	○	性能の高いマスクの提供を通じて、感染予防や健康促進を図る。 機能性ベルトの提供を通じて、スポーツ選手や、腰痛で悩む人々をサポートしている。	3.1 3.2 3.3	
		雇用	○	○	階層別の外部研修、通信講座を受けられる環境を整備している。 柔軟な休暇取得、充実した育休制度により、働きやすい職場環境を提供している。 女性従業員の早期離職防止、賃上げによる働きやすい職場環境を整備していく。 現場での声掛け等、ケガ防止アイテムの使用により、労働災害「0」を継続している。	8.5 8.8
	環境	気候		○	省エネ設備導入やLEDへの切り替えなどにより電気使用量を削減し、CO2排出量削減に貢献していく方針である。	7.3 13.2 13.3
		廃棄物		○	不良品率の引き下げ、再生資源を利用したマスクの開発を検討している。	12.5
	経済	包括的で健全な経済	○		高い縫製技術を生かし、マスク以外の事業を拡大していく方針である。	9.2

※インパクトレーダーで発現したインパクトのうち、上記表に不記載のインパクトは、同社の事業と関連性が低いため、評価対象外とした。

(4) 特定したインパクト

以上を踏まえて、同社のインパクトをESG（環境・社会・ガバナンス）毎に特定した。

環境（Environment）

環境に配慮した経営

- 同社は、製造工程における省エネ設備の導入や LED への切り替えなどにより電気消費量の削減に取り組み、CO2 排出量の削減に貢献していく方針である。
- このインパクトは「気候」のカテゴリに該当し、環境面の NI を縮小すると考えられる。
- SDGs では、以下のターゲットに該当すると考えられる。
 7.3：2030 年までに、世界全体のエネルギー効率の改善率を倍増させる
 13.3：気候変動の緩和、適応、影響軽減及び早期警戒に関する教育、啓発、人的能力及び制度機能を改善する

廃棄物削減に向けた取組

- 同社は、積極的な設備投資により、製造工程の省人化を図っている中、不良品率は5%以下と低い。引き続き製造工程の機械化を進め、不良品率の更なる改善を目指す。
- 同社が製造するマスクは使い捨ての比率が高く、売れば売るほどゴミが増えることを課題と捉え、豊田工場での研究開発を行っている。また、廃材を原料としたマスクの商品化を検討するなど、廃棄物削減に取り組んでいる。
- このインパクトは「廃棄物」のカテゴリに該当し、環境面の NI を縮小すると考えられる。

- SDGs では、以下のターゲットに該当すると考えられる。
12.5：廃棄物の発生防止、削減、再生利用及び再利用により、廃棄物の発生を大幅に削減する。

社会（Social）

安全なマスクの提供による健康促進

- 同社は、全国マスク工業会に属し、衛生マスクの安全・衛生自主基準を遵守して、マスクを製造している。品質検査は“食品レベル”での検査を実施し、管理システムにより、生産・品質・納期管理を行っている。国内、海外で生産されたマスクはすべて自社オリジナル包装ラインで自動包装しており、安全面に配慮したマスクを製造している。
- また、同社は、マスク業界の老舗として、これまでに培ってきた実績や情報をもとに、市場やトレンドに合わせた商品提案や、スピーディなサンプルの提供など、顧客のオーダーに柔軟かつ低コストで対応ができる。
- このインパクトは「健康・衛生」、「包括的で健全な経済」のカテゴリに該当し、社会・経済面の PI を拡大すると考えられる。
- SDGs では、以下のターゲットに該当すると考えられる。
3.1：世界の妊産婦の死亡率を出生 10 万人当たり 70 人未満に削減する。
3.2：新生児及び 5 歳未満児の予防可能な死亡を根絶する。
3.3：エイズ、結核、マラリア及び顧みられない熱帯病といった伝染病を根絶するとともに肝炎、水系感染症及びその他の感染症に対処する。
9.2：包括的かつ持続可能な産業化を促進し、2030 年までに各国の状況に応じて雇用及び GDP に占める産業セクターの割合を大幅に増加させる。後発開発途上国については同割合を倍増させる。

自社技術を活かした他分野への事業拡大

- 同社は、1950 年に国内で初めて民生用マスクを開発。花粉用フィルター付きマスク、不織布マスク、不織布マスクと同等の高性能フィルターを内蔵した布マスク「andMask」など、時代のニーズに合わせた商品を開発・製造してきた。
- 同社は、長年培ってきた縫製技術やマスクに関する知見を活かし、新商品の開発や、マスク以外の製造を手掛けている。
- 同社が製造する機能性ベルト「コアエナジー」は、収縮性の高いメッシュ生地を 6 層に重ねることで身体をサポートするのが特徴で、創業以来培ってきた縫製のノウハウが活かされている。
- また、2024 年 10 月には、リモート会議用ガジェット“SHIELD TALK”という「プライバシーを守るマスク」を開発し、販売を開始した。
- 今後は、マスクの OEM 製造だけでなく、自社オリジナル製品や他分野の製造割合を増やしていく方針がある。
- このインパクトは「包括的で健全な経済」のカテゴリに該当し、経済面の PI を拡大すると考えられる。

- SDGs では、以下のターゲットに該当すると考えられる。
9.2：包摂的かつ持続可能な産業化を促進し、2030 年までに各国の状況に応じて雇用及び GDP に占める産業セクターの割合を大幅に増加させる。後発開発途上国については同割合を倍増させる。

働きやすい職場環境の構築

- 同社は、人材育成に注力しており、階層別に外部研修を受けるカリキュラムを制定している。また、従業員の自己啓発を促すため、通信講座を受講できる環境を整備している。
- 福利厚生面においては 1 時間毎の有休制度や、男性育休制度、各種イベントの開催など、働きやすい職場環境を提供している。また、年に 1 度、従業員向けにアンケートを実施し、アンケート結果を踏まえた取り組みを実施し、従業員満足度向上を図っていく。
- 今後は、人事評価制度の見直し、1 オン 1 ミーティングの実施などによる働き方改革の実施、賃金の引き上げを掲げている。
- このインパクトは「雇用」に該当し、社会面の PI を拡大すると考えられる。
- SDGs では、以下のターゲットに該当すると考えられる。
8.5：2030 年までに、若者や障害者を含む全ての男性及び女性の、完全かつ生産的な雇用及び働きがいのある人間らしい仕事、並びに同一労働同一賃金を達成する。

企業統治 (Governance)

安心・安全な職場環境の構築

- 同社は、従業員が安心して働ける職場環境を整備している。
- 従業員の健康・メンタル面のサポートは、副社長が各拠点を定期的に訪問し、従業員と面談を行い、改善を図っている。また、「健康宣言チャレンジ事業所」として、引き続き健康経営推進に努めていく。
- 労災に関して近年で重大な事故は発生していないが、マシン使用時にケガをするケースがあるため、指ガード装着の徹底等によりケガ防止に努めている。
- このインパクトは「雇用」に該当し、社会面の NI を縮小すると考えられる。
8.8：すべての労働者の権利を保護し、安全・安心な労働環境を促進する。

(5) インパクトニーズの確認、大垣共立銀行との方向性の確認

①国内におけるインパクトニーズ

- 国内における「SDGs インデックス&ダッシュボード」を参照し、国内のインパクトニーズと同社のインパクトを確認する。
- 上記工程を経て特定した、同社のインパクトに対する SDGs は、「3. あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する」、「7. すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する」、「8. すべての人のための持続的、包摂的かつ持続可能な経済成長、生産的な完全雇用およびディーセント・ワークを推進する」、「9. 強靱なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の推進およびイノベーションの推進を図る」、「12. 持続可能な生産消費形態を確保する」、「13. 気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる」に対して、国内における SDGs ダッシュボードでは、「3、8」において、課題が残るまたは重要な課題が残っており、国内のインパクトニーズと同社のインパクトが一定の関係性があることを確認した。



②愛知県・岩手県におけるインパクトニーズ

- 同社は、愛知県、岩手県の工場で製造していることから、「愛知県SDGs未来都市計画」、「いわて県民計画」を参照し、SDGs達成に向けての課題を確認した。

愛知県 SDGs 未来都市計画 –SDGsの推進に資する取組（抜粋）–	
イノベーションを創出するあいち	革新的技術等の社会実装の推進 中小企業の持続的発展に向けた支援 イノベーションを生み出す人材の育成・確保環境保全の推進
すべての人が生涯輝き、活躍できる愛知	若者の活躍促進 女性の活躍促進
環境分野で日本をリードする「環境首都あいち」	「あいち地球温暖化防止戦略 2030」の推進 EV・PHV・FCVの普及促進 循環型社会に向けた取組 環境面を主軸とした経済・社会・環境の三側面をつなぐ取組

いわて県民計画 –SDGsの推進に資する取組（抜粋）–	
自然環境	多様で優れた環境を守り、次世代に引き継ぎます 循環型地域社会の形成を進めます 地球温暖化防止に向け、低炭素社会の形成を進めます
参画	性別や年齢、障がいの有無にかかわらず活躍できる社会をつくります 幅広い市民活動や多様な主体による県民運動を促進します

③大垣共立銀行が認識する社会課題との整合性

- 大垣共立銀行は、「サステナビリティ基本方針」において「地域経済の持続的成長」「地域のイノベーション支援」「多様な人材の活躍推進」「気候変動対応、環境保全」「地域資源の活用」「コーポレートガバナンスの高度化」の6つを重点課題（マテリアリティ）としている。

同社の特定したインパクト	大垣共立銀行の重要課題（マテリアリティ）
環境に配慮した経営 廃棄物削減に向けた取組	気候変動対応、環境保全
安全なマスクの提供による健康促進 自社技術を活かした他分野への事業拡大	地域経済の持続的成長
働きやすい職場環境の構築 安心・安全な職場環境の構築	多様な人材の活躍推進 コーポレートガバナンスの高度化

以上のように、大垣共立銀行は本件の取組みが、SDGsの達成および貢献に向けた資金需要と資金供給とのギャップを埋めることにつながることを目指している。

3. インパクトの評価

ここでは、特定したインパクトの発現状況を今後も測定可能なものにするため、PI の拡大、NI の緩和・管理が適切になされるかを評価し、特定したインパクトに対し、それぞれに KPI を設定する

廃棄物削減に向けた取組

項目	内容
インパクトの種類	環境的側面において NI を縮小
カテゴリ	「廃棄物」
関連する SDGs	
内容・対応方針	製造工程において品質管理に一層注力し、マスクの廃棄量削減を推進する
KPI	<ul style="list-style-type: none"> ・2024 年度以降も不良品率 5%以下を維持し、2029 年度までに同 3%以下にする。 (2023 年度実績：3.2%、平年は 4~5%程度)

安全なマスクの提供による健康促進と自社技術を活かした他分野への事業拡大

項目	内容
インパクトの種類	社会的側面において PI を拡大 経済的側面において PI を拡大
カテゴリ	「健康・衛生」「包括的で健全な経済」
関連する SDGs	 
内容・対応方針	<p>引き続き高品質なマスクを安定供給し、感染症拡大防止等健康で安心な社会づくりに貢献する</p> <p>長年のマスク製造で培った技術を活かし、新たなニーズの獲得・顧客基盤の拡大を目指す</p>
KPI	<ul style="list-style-type: none"> ・マスク関連の売上高 22 億円以上を維持する (2023 年度実績：22 億円) ・2029 年度までに機能性ベルトなどマスク関連以外の売上高を 3 億円以上に する (2023 年度実績：2 億円、平年は 1 億円強)

安心安全で働きやすい職場環境の構築

項目	内容
インパクトの種類	社会的側面において PI を拡大 社会的側面において NI を縮小
カテゴリ	「雇用」
関連する SDGs	
内容・対応方針	従業員の働きがいや生活の向上を図り、持続可能な企業成長の基盤を作る 役員による定期的な現場訪問などを通じて、従業員への方針伝達や指導を密に行い、引き続き安全な職場環境構築に努める
KPI	<ul style="list-style-type: none"> ・2029 年度までに従業員満足度調査で「満足」以上（5 段階評価中の上位 2 段階）を 75%以上にする （2023 年度実績：65.3%） ※全従業員を対象とした外部委託調査（年 1 回）によって測定 ・重大な労働災害件数年間 0 件を維持する（直近 5 年 0 件継続中）

4. モニタリング

(1) 株式会社白鳩におけるインパクトの管理体制

- 同社では、津田副社長を中心に、本 PIF におけるインパクトの特定並びに KPI の策定を行った。
- 今後については、本件にかかる責任者を津田副社長とし、SDGs の推進、並びに、本 PIF で策定した KPI の管理を行っていく方針である。

(2) 大垣共立銀行によるモニタリング

- 本 PIF で設定した KPI および進捗状況については、同社と大垣共立銀行の担当者が定期的な場を設けて情報共有する。少なくとも年に 1 回実施するほか、日々の情報交換や営業活動を通じて実施する。

【留意事項】

1. 本評価書の内容は、大垣共立銀行とOKB総研が現時点で入手可能な公開情報、同社から提供された情報や同社へのインタビューなどで収集した情報に基づいて、現時点での状況を評価したものであり、将来における実現可能性、ポジティブな成果等を保証するものではありません。
2. 大垣共立銀行、およびOKB総研が本評価に際して用いた情報は、大垣共立銀行およびOKB総研がその裁量により信頼できると判断したものであるものの、これらの情報の正確性等について独自に検証しているわけではありません。これらの情報の正確性、適時性、網羅性、完全性、および特定目的への適合性その他一切の事項について、明示・黙示を問わず、何ら表明または保証をするものではありません。
3. 本評価書に関する一切の権利はOKB総研に帰属します。評価書の全部または一部を自己使用の目的を超えての使用（複製、改変、送信、頒布、譲渡、貸与、翻訳及び翻案等を含みます）、または使用する目的で保管することは禁止されています。